

令和元年度東京都立杉並総合高等学校 経営報告

令和元年度の教育活動の自己評価（以下、平成31年度の目標・方策は簡略化して表示。）

1. 学習指導

目 標	方 策
<p>基礎学力の習得と生涯を通じて学ぶ意欲と能力の育成</p> <p>①毎日60分の家庭学習の習慣化</p> <p>②基礎学力の向上</p> <p>③3年間を通した計画的な学習指導</p> <p>④言語能力の向上</p> <p>⑤ICT機器を用いた授業の充実</p> <p>⑥アクティブ・ラーニング推進校として、思考力・判断力・表現力を重視した授業展開を推進</p> <p>⑦ 探究活動の推進</p>	<p>①予習や復習、小テスト等を前提とした授業の工夫</p> <p>②基礎学力の向上や専門的知識を身につけるための基礎・基本を大切に授業の展開と選択科目の設定</p> <p>③3年間を通した計画的な学力向上への取組みの推進と分析</p> <p>④読書活動の一層の推進</p> <p>⑤実験・観察等の体験的・問題解決的な学習とICT機器を用いた分かりやすく興味関心を引き出す授業の充実</p> <p>⑥主体的・対話的深い学びや発表機会を多く取り入れた授業の推進をするとともに、授業研究や研究協議を充実する。</p> <p>⑦ 探究活動を深め、課題研究の内容をより充実させる。</p>
<p>（自己評価）</p> <p>①②③60分以上家庭学習をする生徒の割合はほぼ横ばいであり、38%に止まっている。さらに、予習復習を前提とした授業の実施や、自宅学習確保に向けた年次の取組みが必要である。目標を早期に定め、最良の自己実現に向けた、計画的な学習が必要である。今後は生徒自らが家庭学習の意義を見出し取組ませる必要がある。</p> <p>④依然未読率は、少しずつ改善傾向にあるが、依然として29.9%程度ある。一人当たりの図書貸出し冊数は2.5冊であり、ほぼ、横ばいである。図書館を利用する生徒としない生徒の差が激しい。</p> <p>⑤⑥ICT機器を用いた授業は、ほぼ全教科で実施している。アクティブラーニングの授業も多く行われている。</p> <p>⑦1年次「総合的な探求の時間」を「人間と社会」に代替えた。</p>	<p>（特記事項）</p> <p>①②③早めに進路を明確にすることで学習に対する意欲を喚起した。SNSやゲームに割く時間減を呼びかける等の取組みを行っている。</p> <p>④進路指導と連携した学習ガイダンスが充実してきた。また、学校全体でのビブリオバトル（書評合戦）の実施により未読率の改善をおこなった。</p> <p>⑤ICT機器を活用した授業は、60%以上の教員が実施（授業観察により）。機器の確保が課題。</p> <p>⑥教員による相互授業見学、授業研究が実施された。アクティブラーニングの授業はほぼすべての教科で実施をしている。また、授業研究も実施した。探求型・体験型授業も増加している。</p> <p>⑦今後の「探求の授業」に繋がる内容の単元を積極的に選んでいく。</p>

進路指導

目 標	方 策
<p>最良の進路選択とその実現</p> <p>自らの生き方や働き方を視野に入れ、先行き不透明な時代を切り拓こうとする意識の醸成と生徒自らが判断できるような適切な進路相談</p>	<p>①自己実現・進路実現のための3年間の計画的なキャリア教育の「見える化」と年間進路行事の充実</p> <p>②サクセスプランニングを中心とした自己理解、職業観の育成、将来につながる科目選択指導の充実</p> <p>②生徒の学力向上・進路実現のための充実した夏期講習週間の組織的・計画的設定、土曜講習、予備校の講師による講習の実施</p> <p>③興味関心と将来に関わる題材の「課題研究」指導と研究内容・発表の充実。</p> <p>④進路実現や自己実現につながる地域と連携した「人</p>

	間と社会」の充実 ⑥クラッシーを活用したポートフォリオの充実 ⑦英語 4 技能を高める英語検定の実施。
(自己評価) ①進路指導への肯定的評価は、74%に上昇した。 地域の 10 団体を連携した体験活動を実施し、校内での発表会を実施した。多くの生徒が、地域で活動する団体について知り、生き方を知り、社会に貢献することを学び、キャリア教育の成果が上がった。 ②進路希望調査を年 3 回実施し、自校作成の進路の手引きを使い全学年で進路ガイダンスを実施した結果、早めの進路希望先の決定につながった。指定校・推薦・AO入試による合格者多くなった。 年次ごとの創意工夫・改善が行われている。 ③夏期講習期間を確実に確保して、講習を受講する機会を確保することができた。 ④産社・人間と社会・課題研究の肯定的評価は 60%に減少した。「課題研究」発表会、「奉仕」発表会の発表レベルは上がっている。 ⑤アンケート・振り返りにより、取組み・成果をデータとして記録している。 ⑥ 4 技能の英語模試として、GTECを導入していたが、新型コロナウイルスの影響で中止になった。	(特記事項) ①②予習・復習ガイダンス、インターンシップ、職業体験、カタリバ、卒業生進路講演会、スタディーサポート、大学説明会、専門学校説明会等を実施した。杉総のキャリア教育を作成し、3 年間の流れを確実に踏襲できた。 地域の 10 団体を連携した体験活動を実施し、校内での発表会を実施。 ③長期休業中の講習、土曜講習の実施。 予備校による英語の土曜講習を年 20 回実施した。12 月に課題研究発表会、3 月に社会と人間発表会を実施した。 ④ ⑤予備校による土曜講習の成果が出ている。「課題研究」発表会の実施。探求的要素もあり、発表技術も向上している。 各種行事等について、成果と課題を記録している生徒もいる。 ⑤ 1 年生が全員学校で GTEC を受験した。 ⑥ 新型コロナウイルスの影響により、臨時休校になり、中止された。

### 3.生活指導

目標	方策
人として成長するための良い習慣付け ①時間厳守、挨拶と身だしなみ意識の徹底 ②規範意識の向上、生活規律・授業規律の徹底 ③清掃の徹底と机の中の整理 ④通学時の自転車・歩行マナーの定着	①キャリア教育の視点に立った遅刻防止、挨拶励行、身だしなみ・服装指導の徹底 ②他者への思いやり、規律ある授業態度、集会での聞く姿勢の指導の徹底とソーシャルメディアの不適切な利用をさせない指導の徹底 ③日常の清掃の徹底を図るとともに、誰もが使用する机であることの意識を高め、机の中の整理を徹底する。 ④自転車・歩行マナーの指導強化
(自己評価) ① ②時間厳守や、挨拶・身だしなみ指導により生徒は落ち着きを持って生活している。しかし、クラス平均の遅刻者は 2.41 人に増加した。頭髪指導、服装指導については前年同様の成果をあげることが出来た。遅刻・頭髪指導は追指導を受ける者が大幅に減少した。 ③清掃の徹底を組織的に行った。 文化祭では、資源の再利用を行った ④自転車のマナーについては継続した指導が必要である。今年度は、苦情がほとんどなかったが、自転車等に係る保険支払総額は増加した。今後も継続した指導が必要。	(特記事項) ①②生徒指導件数は今年も少ない。全校生徒対象の SNS の使い方に関する講演会を行い、個人情報の扱いやインターネットの適切な利用について指導した。いじめについては 12 月に校内調査を行い、記載のあった事例を確認したが、特に問題となるものはなかった。消防署と連携した宿泊防災訓練の実施。交通安全教室を実施した。自転車事故は生命にかかわるので、継続して指導していく。 ③文化祭等で、ごみの減量化に取り組んだ。 ④全ての部活動が募集枠を満たした。

#### 4.国際感覚と異文化理解の向上

目標	方策
グローバル人材の育成	①台湾修学旅行とオーストラリア姉妹校フォートストリート高校への短期留学の国際理解を高める行事の充実 ②生徒が海外の人々と交流する場の設定 ③文化・国際交流活動の推進 ④スピーチコンテストの一層の活性化と語学教育の充実 ⑤国際交流をより充実させるための英会話力向上への取組みの推進・TGG（東京英語村）の活用で、伝わる喜びともっと話せるようになりたいという意識の醸成 ⑥ユネスコスクールとして持続可能な取組みの実践
(自己評価) ① 第6回の海外修学旅行として台湾修学旅行を実施し、全校生徒がパスポートを持ち海外を経験するという目標を実現した。 ② 留学生の受け入れは、長期、1名を受け入れ、生徒が日常的に外国人の生徒と交流できる環境を拡大した。海外高校生(団体)の本校訪問の機会が3件。 ③ ジェニシス(姉妹都市交流)7名、トビタテ留学ジャパンに私費参加も含めて17名。次世代リーダー育成道場で4名が留学した。校内選考には多くの生徒が申し込むなど、かなりの活性化がみられる。生徒及び入学してくる生徒の国際理解に関する関心は年々高くなっている。 ④ 1年次生全員がTGG(東京英語村)体験に参加した。 ⑤ 持続可能な交際交流活動に実施、発表会への参加。	(特記事項) ① 2年次生徒の台湾修学旅行(海外修学旅行)、台湾にて、内思職業高級工業職業学校との交流活動実施 ② イタリア長期留学生受け入れ、オーストラリア姉妹校Fort Street高校から21名短期留学を受け入れた。 ③ ASIJ ミュージカル鑑賞、次世代リーダー留学生帰国、トビタテ留学Japan インドネシア等参加、私費による、韓国語学研修参加。 ④ 日韓国高校生交流受入、東京外大文化祭見学、留学生が先生実施、校内英語スピーチコンテスト実施 ⑤ 1年次生全員がTGG(東京英語村)体験 ⑥ インドネシア等参加、私費による、韓国語学研修参加、オーストラリア姉妹校、韓国美林女子情報科学高等学校連携。総合学科発表会(トビタテ)、東京外大文化祭見学、留学生が先生実施

#### 5.部活動・特別活動の活性化

目標	方策
① 部活動の活性化 ② 練習の効率化 ③ 行事の充実  保護者・地域社会との連携と開かれた学校づくり 社会貢献意識の向上と保護者・地域社会との連携	①部活動の加入率の増加の取組み、大会等の上位進出に向けた練習内容の充実、部活動情報のHP掲載 ②生徒の負傷リスクを避けるため、単なる長時間の練習から効率の良い練習への改善。練習計画のホームページへの掲載。 ③効率的な練習計画による活動、生徒の自主性を重視した三大行事(合唱祭・杉総祭・体育祭)の一層の充実と文化祭入場者数の増加に向けた取組み
(自己評価) ① バドミントン部が関東大会連続3年出場。国公立大会三連覇勝、女子バスケット部ベスト16。女子サッカー一部都ベスト4、関東大会出場部、1回戦勝利、	(特記事項) ① 3大行事に対する生徒の取組み熱意は高い。杉総祭の来客者数は2428人あり。来年度はさらなる来客者数を集めたい。生徒会による部活動紹介

<p>活動は大会成績が向上し、相乗効果で活性化している。</p> <p>② ガイドラインに従い、部活動のない日を設定した。</p> <p>③ 文化祭、体育祭、合唱祭のほかに、外国語スピーチコンテスト、課題研究発表会や産業社会と人間、社会と人間の発表会を実施した。</p>	<p>の充実。ユネスコスクールとして持続可能な教育をめざし実践している。</p> <p>② 月間予定表により、週休日の練習を管理している。</p> <p>③ 体験活動の充実。</p> <p>校内・校外の広報用掲示板とHPを有効活用し、月1回以上の掲載更新をした。</p> <p>文化スポーツ等特別推薦枠は全ての種目に応募があり、倍率もある。</p>
---	--

## 6. 保護者・地域社会との連携と開かれた学校づくり

目標	方策
<p>社会貢献意識の向上と保護者・地域社会との連携</p>	<p>① 生徒会や部活動を中心とした地域行事への積極的な参加・ユネスコスクールとしてESD活動に参加(環境教育の充実、美化・清掃活動の活発化、地域の活動への積極的参加)</p> <p>② 防災教育の充実・防災マニュアルの充実</p> <p>③ 学校施設開放</p>
<p>(自己評価)</p> <p>① 部活動や生徒会が中心となり、特別支援学校、ろう学校、杉並区立の中学校生徒との連携を深めた。地域のお祭り等にも参加し連携を深めた。</p> <p>② 東京都・杉並区の水道局や消防署と連携した活動を推進した。</p> <p>③ グランド、テニスコート、体育館の施設を登録団体に抽選で開放しているが、応募団体が多く希望に対応できない。</p>	<p>(特記事項)</p> <p>① ろう学校とのコラボによる、本校文化祭の開会式において、手話歌の舞台発表を行った。 本校、教員・生徒が小学校の補修授業(パワーアップ講習会)を担当した。</p> <p>② 水道局と培われた連携事業により、水道局・杉並営業所の出前授業としても、給水訓練を実施している。</p> <p>③ 本校も部活動があり、部活動も盛んなため、定期考査前・実施中のみでの開放事業となっている。</p>

## 7. 学校経営・組織体制

目標	方策
<p>① 効率的な校務運営と経営目標達成の為の組織の活性化</p> <p>② 働き方改革を推進し、定時以外の勤務時間の縮減</p> <p>③ ICT機器の有効活用</p> <p>④ 特別支援教育の推進</p>	<p>① 企画調整委員会と各分掌・教科会との意思疎通の強化と会議時間の縮減化。教員対象の研修会の実施(海外修学旅行、進路実現、学力向上、服務事故防止、次期学習指導要領等)</p> <p>② 計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、定時以外の勤務時間1か月60時間を超える教職員0名を目指す。教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> <p>③ ICT機器の適正な管理・運用の推進、</p> <p>④ 特別支援コーディネーターを活用し、同教育の理解と適切な対応に取り組む。</p>

<p>(自己評価)</p> <p>① 職員会議の開始時間厳守、企画調整会議の事前調整の推進等により、会議時間の短縮を推進した。</p> <p>② 各自に定時以外の勤務時間を知らせ、勤務時間の短縮を推奨している。</p> <p>③ 授業での ICT 活用を推奨するために、推進委員会を設置している。推進リーダーも選任している。進路相談部のキャリア担当者が中心となって、ルーブリック評価を導入した。キャリア教育の充実に活用している。</p> <p>④ 特別支援会議を3回開催した。</p>	<p>(特記事項)</p> <p>① 学校運営連絡協議会を3回、防災教育推進委員会を2回、PTA連絡会は年間6回実施し、開かれた学校づくりを推進した。 会議時間等の設定、開始時間の厳守により、時間退縮を推進した。 部活動の活性化のためにHPの活用や、教職員玄関掲示板を活用した。正門、上北門の掲示板活用 PTAと同窓会の支援による横断幕の設置</p> <p>② 定時以外の勤務が多い教職員に産業医との面接も実施している。 定時以外の勤務の内容を検討し、削減の可能性を検討した。</p> <p>③ ICTを研究授業等で、積極的に使う教職員も増えてきた。配当されたICT設置数が不足するまでに、活用されている。</p> <p>④ 特別支援会議のメンバーは必要に応じて、毎週集まることが可能になっている。</p>
--	---

### 8.経営企画室

目標	方策
<p>経営参画型経営企画室を目指し、関係部署との連携により、円滑な教育活動を支援する。</p> <p>① 積極的な学校経営への参画</p> <p>② 適正な予算編成及び執行</p> <p>③ 安全な環境整備</p> <p>④ 事故防止の徹底</p>	<p>① ・本校の「顔」として、接客や接遇、電話対応を適切かつ好印象を受けるよう心掛ける・企画調整会議への参画</p> <p>② 予算ヒアリングの充実と適正な予算編成及び執行</p> <p>③ 施設設備の定期点検</p> <p>④ 就学支援金やマイナンバーカード等の書類の受渡や管理の徹底</p>
<p>(自己評価)</p> <p>① 経営企画室から見た、学校運営について意見を聞き改善すべき点を提案する機会を定期的に設定し、経営の改善を行った。</p> <p>② 予算の適正な配分を実施するため、予算のヒアリングに、副校長が参加して、学習活動（授業等）で必要なものでも、査定対象とした。</p> <p>③ 衛生管理者、衛生安全委員会等のメンバー、施設担当者を中心に校内の安全点検を行った。</p> <p>④ 特定個人情報にアクセスできる人物を事前に特定している。</p>	<p>(特記事項)</p> <p>① 企画調整会議に室長以外の経営企画室のメンバーも参加して、経営企画室からの改善案などを提言した。</p> <p>② 予算の適正な執行を行うとともに、センターによる契約率の設定目標を実現するために、対策を行った。</p> <p>③ 自然災害の被害等を迅速には把握して、修理を行った。また、塀の安全点検も行った。</p> <p>④ どの情報が特定個人情報等に該当するか、事前に確認を行った。</p>

### 9. その他

目標	方策
<p>① 「体力の向上と健康作り」 心身の健康についての意識の向上</p> <p>② 総合学科に対する理解促進と中学生募集活動の推進</p> <p>③ 推薦・学力に基づく選抜の適正な実施</p> <p>④ 2020 東京オリ・パラ教育の推進</p> <p>⑤ 新学習指導要領の実施に向けた検討</p> <p>⑥ 総合学科高校学習成果発表会の充実</p> <p>⑦ 自らの生命を尊重する教育の推進</p> <p>⑧ いじめ未然防止や体罰根絶の取組の推進</p>	<p>① 学校保健計画に基づく保険教育・食育教育の充実と体力テスト結果向上に向けた取組みの推進</p> <p>② 中学生向け体験授業の5教科実施</p> <p>③ 全教職員の組織的な取組みによる推薦・学力に基づく選抜の適正な実施</p> <p>④ 講師派遣による講演会の実施や授業・HR等での組織的・計画的取組みの推進</p> <p>⑤ 全教員による新学習指導要領の理解とPTによる方向性と進行管理及び教科主任会による取組みの充実</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 学校代表として、内容の充実と高いプレゼン力で本校の取組を全都に示すとともに、生徒の見学者増員。</li> <li>⑦ 特別支援教育推進委員会が中心となり、生命尊重の啓発活動を行うとともに、悩みや不安を相談しやすい環境を作る。</li> <li>⑧ いじめ防止アンケートや体罰に関する調査を実施し、実態把握に努めるとともに適切に対応する。必要な場合は学校いじめ対策員会を招集し適切に対応する。</li> </ul>
<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 東京都の平均を超えている。</li> <li>② 中学校から依頼のある学校説明会に出向いていた。</li> <li>③ 生徒会による学校案内のDVD動画を作成し、在校生にも見せて愛校心の醸成につなげた。</li> <li>④ 各教科で横断的に取り組んでいる。</li> <li>⑤ 職員会議の時を利用して、研修会を実施した。</li> <li>⑥ 国際理解教育を中心に本校の特徴的なものが発表された。</li> <li>⑦ HR・各教科の時間を使って、生命尊重教育を行った。</li> <li>⑧ ふれあい月間等に、きめ細かなアンケートを実施した。</li> </ul>	<p>(特記事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒間格差が大きく、優れている生徒も多くいる。</li> <li>② 学校説明会は参加できるが、出前授業は本校の授業と重なり難いことが多かった。</li> <li>③ 学校説明会・個別相談会に多くの参加者があった。2年生向け、説明会にも多くの生徒が参加した。</li> <li>④ 次年度はアスリートを招待することを目指す。</li> <li>⑤ 最新情報を職員会議等で伝えた。</li> <li>⑥ 文化祭、体育祭、合唱祭のほか、外国語スピーチコンテスト、課題研究発表会や産業社会と人間、社会と人間の発表会を実施した。</li> <li>⑦ 教科の授業の中で、実施している。また、スクールカウンセラーを活用している。</li> <li>⑧ 外部機関と連携を取っている。</li> </ul>

## 重点目標への取組と数値目標の結果

(重点目標は今年度の取組目標の中の最重要目標を取り上げて数値目標を設定したものです。)

### 1.学習指導：毎日60分の家庭学習の習慣化

数値目標	結果	(30年度)
(1) 授業以外の学習時間60分以上50%	38%	38%
(2) 未読率改善(10%以下)	33.5%	34.9%
(3) 図書貸出冊数の増加(一人年間4冊)	2.5冊	3.1冊
(4) ICT機器を活用した授業：10教科で実施	10教科	10教科

### 2.進路目標：生徒の第一志望の実現

数値目標	結果	(30年度)
(1) 進路相談への肯定的評価 80%	77%	74%
(2) 進路の第一志望達成率 80%	83%	77%
(3) センター試験受験者数 110名	74名	70名
(4) MARCH以上合格者数 10人以上	9名	4名
(5) 「産業社会と人間」「奉仕」「課題研究」の肯定的評価75%以上	77%	60%

### 3.生活指導目標：挨拶と身だしなみの意識の徹底

数値目標	結果	(30年度)
(1) 遅刻率1日平均1.0人/クラス以下	1年次 0.4人 2年次 1.2人 3年次 5.7人	1年次 0.4人 2年次 1.6人 3年次 2.2人
(2) 文化祭の来場者数 2800人	2428名	2404名
(3) 体育祭への肯定的評価 85%以上	82%	84%
(4) 1・2年生の部活動参加率 90%以上	87%	88%
(5) 保健室の利用者数 延べ1300人以下	1160名	1230名
(6) 頭髪指導を受けた生徒の改善率 100%	100%	100%

### 4. その他

目標	結果	(30年度)
(1) 海外からの訪問者の積極的受け入れ 10件以上	4件(留学生1名・団体3件)	7件(留学生5名・団体2件)
(2) 中進対志望倍率	1.2	1.3
(3) 東京都統一体力テスト	東京都平均以上	東京都平均以上
(4) ホームページへのアクセス回数 120,000回以上	167回	156回
(5) 杉総通信の毎月発行(計10回)	10回	10回
(6) 月当たり定時外勤務時間が45時間を超える教職員0名	14名	

以上